

9月の行事予定		
1	木	運動会練習日
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	身体測定
6	火	誕生会・お楽しみ献立
7	水	
8	木	運動会練習日
9	金	体操教室
10	土	
11	日	
12	月	運動会練習日
13	火	運動会練習日
14	水	のびのび英会話
15	木	運動会練習日
16	金	避難訓練 運動会練習日
17	土	
18	日	
19	月	敬老の日
20	火	運動会リハーサル
21	水	運動会練習日
22	木	運動会リハーサル
23	金	秋分の日
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	園だより・給食・クラス便り配布 運動会練習日
28	水	運動会練習日
29	木	運動会リハーサル
30	金	

たかほだより

新型コロナウイルス感染症も10歳未満の子も多く発症しています。熱が続いたりすると、不安を感じる時もあります。大人たちの心が沈む中、子どもたちの楽しい会話や仕草に心が癒やされている毎日を過ごしています。子どもたちの笑顔は、パワーがありますね。さて9月に入ると、秋の運動会に向けて少しずつ遊戯やかっこ練習が始まります。また、この時期は、夏の疲れが出やすいので一人ひとりの体調に気をつけながら無理なく練習に臨んで行こうと思います。なかなか外での練習も、思うように出来ないかもしれませんが、本番では元気な頑張りを見せてくれることでしょう。温かく見守っていただければ幸いです。

保育目標

あか組 ◆保育士の援助を受けながら、全身を使った遊びを楽しむ。
◆ゆったりと生活リズムを整えながら、夏の疲れを取る。

みかん組 ◆身近な秋の自然に触れ、体を動かして元気に遊ぶ。
◆生活や遊びの中で、保育士や友だちと言葉のやりとりを楽しむ。

ふじ組 ◆簡単な約束を守りながら、保育士や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
◆残暑が厳しく、夏の疲れも出やすいので、体調の変化に留意し、健康に過ごせるようにする。

そら組 ◆行事に向けて、制作や運動遊びを楽しみ、行事への期待を持つ。
◆季節の移り変わりを感じながら、秋の自然に興味を持つ。

もも組 ◆体を動かす事に興味を持ち、楽しさを実感しながら、意欲的に運動に取り組む。
◆夏から秋への自然の変化に関心を持つ。

きいろ組 ◆自分の思いや考えを相手に分かるように伝えながら、遊びや生活を進めていく楽しさを味わう。
◆身近な自然に触れて遊びながら、夏から秋への移り変わりを目や肌で感じる。

2022年

9月

8月26日

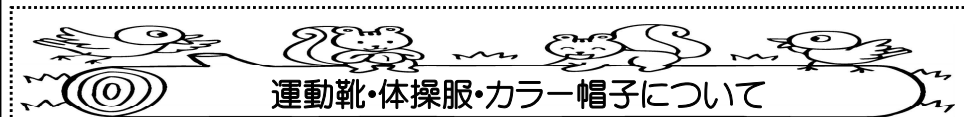


お誕生日おめでとう

- ・しながわ ほのか さん (6さい)
- ・こばやし あいと くん (6さい)
- ・いわやなぎ こうせい くん (6さい)
- ・ふじた かのん さん (5さい)
- ・はやし みのり さん (5さい)
- ・はぎしま せいたろう くん (4さい)
- ・かんばやし ななみ さん (4さい)
- ・けっそく そうた くん (3さい)
- ・くまがい りんか さん (3さい)
- ・さくらい りと くん (2さい)

運動会練習日

ふじ組以上児の「運動会練習日」は、園庭にて合同で行います。クラスによっては種目の内容や天候で行わないこともありますが、練習日と記載されている日には、体操着又は運動しやすい服装や運動靴での登園をお願いします。○かけっこや競技の練習が始まります。サンダルや、おしゃれ靴での登園は避けて下さい。
※練習の都合上、9時までに登園して下さい。ご協力をお願いします。



運動靴・体操服・カラー帽子について

☆運動会当日は、普段はき慣れている運動靴での運動会参加となりますが、靴のサイズがお子さんの足にあった運動靴での参加をお願いします。
(靴には名前を忘れずに・・・)
☆カラー帽子のゴムが伸びているお子さんが目立ちます。ゴムの確認、付け替えをお願いします。
☆体操服が小さくなっているお子様は、担任にご注文下さい。

今後の保護者会活動

◆秋季大運動会について◆

今年度も、例年通りの予定で運動会が開催出来ません。どのような方法で行えるか、検討中です。内容変更は、出来るだけ早くご連絡致します。また、第3回役員会は中止と致します。

お知らせ

◆コロナ感染症が、収束する気配がありません。保育園でも、クラスターが出ている話を良く耳にします。保護者の皆様の協力のもと、今の所そのような事はありません。また、小さなお子さんにも感染する可能性が高いとも言われていますので、お子さんを含め家族が「体調不良」の時は、家庭での保育にご協力お願い致します。

魔法のことはば

子どもが転んでしまい、「いた〜い」と言って泣きべそをかきました。 そんなとき...



子どもは、ただ痛かったので「痛い」と言っただけです。嘘を言ったわけではありません。子どもの「痛い」という言葉をそのまま認め、まず何らかの共感言葉をかけます。すると子どもは、認めてもらえたと嬉しさを、自分の言葉が受け入れてもらえた満足感で心に余裕が生まれ、今度は相手がいう言葉を受け入れる準備ができます。「大丈夫かな?」「我慢できるかな?」などの言葉にもきつとうなずくようになると思います。大人でも、自分が痛い目に遭ったとき「大丈夫?」のひと言で、痛みが軽減されるものです。